

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）
「国内の病原体サーベイランスに資する機能的なラボネットワークを強化するための研究」
分担研究報告書

インフルエンザサーベイランスにおける
検査技術の維持・向上

研究分担者 渡邊真治 国立感染症研究所
インフルエンザウイルス研究センター

研究要旨 インフルエンザサーベイランスを実施するうえで、地方衛生研究所（地衛研）に必要な検査技術の維持・向上を目的として、検査技術の実態調査を行っている。その調査や実際のサーベイランスにおける不具合・問題点・改良点等について、レファレンス（コア・サポート）地衛研と連携して対応した。

A. 研究目的

インフルエンザサーベイランスは、インフルエンザウイルスの流行状況を把握するだけでなく、インフルエンザワクチンのためのウイルス株選定や抗インフルエンザ薬に対する耐性株の検出という役割を担っている。そのためには分離ウイルスが必要であり、したがって地方衛生研究所（地衛研）における検査技術の維持・向上が大変重要である。そこで本研究では、インフルエンザレファレンス（コア・サポート）地衛研と連携し、地衛研の検査技術の維持と向上を図るために実施している実態調査に関して、あるいはインフルエンザサーベイランスにおける問題点・改良点を洗い出すことを目的とした。

B. 研究方法

インフルエンザレファレンス（コア・サポート）地衛研と、地衛研の検査技術の維持・向上のための実態調査の実施を計画した。またインフルエンザサーベイランスにおける問題点・改良点に関する意見・質問を受ける計画をした。

C. 研究結果

2020年度は新型コロナウイルスの流行のため実態調査の実施を断念したが、次年度以降のための準備をした。また、インフルエンザウイルスの流行に備えて、病原体サーベイランスに関する情報をインフルエンザレファレンス（コア・サポート）地衛研を通して全国地衛研と共有した。

D. 考察

全国地衛研を対象とした実態調査は、新型コロナウイルスの流行の影響を受けたが、インフルエンザウイルスの流行に備えて、情報共有を行ったことは、サーベイランス

を円滑に進める上で重要だったと思われる。

E. 結論

コア・サポート地衛研と連携し、情報共有・意見交換を行うことで、全国での実態調査やサーベイランスが円滑に実施されている。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

論文発表
該当なし

学会発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし